

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

4

月に息子が小学校に入学しました。朝の登校は通学路に慣れるまで付き添い歩いているのですが、地域のボランティアの方々朝早くから横断歩道の側に立ち、見守り、子どもたちに優しく声を掛けてくださいます。感謝の気持ちでいっぱいです。子どもにも、地域の方々の見守りがあって安全に登校できていることを伝えていきたいです。(R・Fさん・女性)

新小学生になり、一人で通学路を歩いたり横断歩道を渡ったりするのは初めてという子どもも多いと思います。そのような中、交通安全協会や町内会など地域の方々が子どもたちを見守ってくれています。このような人たちがいるからこそ、子どもたちは毎日安全に通学がで成長していくのだと思います。子どもは未来の宝。地域で、子どもたちを守り育てていくことが、明るい社会への一歩につながります。

5

月の連休は、皆コロナと共存しながら、いろいろな楽しみだのかなあと思いつつ、私も「かのやばらまつり」に出掛けてみました。びつくり「すごい」「きれい」「最高」心が癒されました。バラやばら園でのクイズなども楽しんじやいました。時間が足りないけど、足はクタクタで、体力をつけて、また行きますよ！(K・Nさん・女性)

「かのやばら祭り2022春」では、大規模イベントは行わず感染症防止対策を徹底し、38日間開催しました。期間中はSNSを活用したフォトコンテストなど市民協働型イベントを行い、昨年の1.5倍にあたる約3万5千人が来園しました。今年度は、令和5年春のリニューアルオープンに向けてより多くの来園者が訪れる魅力あるばら園の整備を行います。今後も引き続き市民の皆さんに愛されるばら園となるよう取り組んでいきます。

鹿

鹿屋市保健センター横を歩く公園内には、鹿屋小唄を作詞したという野口雨情の石碑があり、近くには展望所も。以前、孫と登った時は、見事な満開の桜に出会いましたが、この碑のことは知りませんでした。草地も綺麗に刈られてあり、静かな良い場所です。何百年経っているだろうと思われる大木もそびえ立ち、四季の移ろいを感じることもでき、市民の憩いの場になるといいなと感じました。手付かずの場所もありましたが、孫と二人、階段に腰をかけ、芋をほおばりながら、ゆつたりと時の流れる一時を過ごしました。(M・Hさん・女性)

北田町の城山公園は、鹿屋城(亀鶴城)跡に作られた公園です。公園内の日本庭園には地下水が湧出しており、かつてはこの湧水を利用した市民プールがありました。

さて、野口雨情の石碑ですが、野口氏は童謡界の三大詩人と謳われた人物で、全国を行脚しながらその土地のご当地ソングを残しており「鹿屋小唄」もその一つです。歌詞には、高隈山に荒平天神、胡椒など鹿屋の風景や特産品が歌われています。休みの日など城山公園を散策しながら、鹿屋の歴史に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

5

月号の子どもの会の記事をとて、懐かしい気持ちで読みました。昭和40年代の子ども会は、5月の子どもの日は、毎年のように集落のお宅を借りて、小学1年生から6年生まですべての子どもだけで企画した楽しい催しを開いていました。懐かしい子ども時代を思い出しながら読んで5月号でした。(ほたるぶくろさん・女性)

子ども会は、児童や生徒が地域を基盤に集団で活動を共有することで、より良い成長を育むコミュニティです。市では減少傾向にある子ども会の活性化を図るため、「KOKAプロジェクト」を推進しています。

子ども会では、異なる年齢で集団活動を行うことから、役割や話し方、思いやりの心などを自分自身で考え、育んでいくこととなります。そこで手に入れた方は、一生の財産になっていくと思います。

フォトネタ



かのやばら園「タイタンピカス」温室の「タイタンピカス」が咲き始めました。手のひらより大きい花で、巨神「タイタン」とハイビスカスのような花姿にちなんでも名付けられました。